

意見交換会の開催記録

対象とする施策の内容	市民活動促進基本計画の策定について
開催日時・開催場所	平成 20 年 1 月 15 日（火）18:30～19:40 藁科公民館 第 3 集会室
参加者数	10 名（委員 7 名、市民 3 名）
議 題	市民活動促進基本計画（案）について
意見交換会の概要 （市民意見の概要等、市民 意見に対する実施機関の考 え方など）	別紙のとおり
担 当 課	生活文化局市民生活部市民生活課 電 話 0 5 4 - 2 2 1 - 1 2 6 5 ファクシミリ 0 5 4 - 2 2 1 - 1 5 3 8 電子メールアドレス seikatsu@city.shizuoka.jp

静岡市市民活動促進基本計画（案）に係るタウンミーティング 意見交換の記録

と き 平成 20 年 1 月 15 日（火）18:30～19:40

ところ 藁科公民館 第 3 集会室

人数 10 名（委員 7 人、市民 3 名）

質問：指標の常勤・有給スタッフ 1 人以上の N P O 数は、法人と非法人を合わせた数でしょうか。

回答：その通りです。市民生活課で作成している市民活動団体名簿に載っている N P O 法人約 200 法人、ボランティア団体約 200 団体に対して、毎年の内容更新手続きと合わせて調査しています。

質問：市の事業を市民に外部委託することによってスリム化を図るということですか。

回答：公共的なことは行政がやるべきであるという考え方ではなく、適切な役割分担により社会的課題の解決を目指していくという考え方に変わっていかうということです。結果として、行政のスリム化につながる面は否めません。

質問：町内会は S 型デイサービスや地域防災などいろいろ活動していますが、町内会と N P O の連携や役割分担はどうなるのでしょうか。

回答：まず、町内会活動の大半は、市民活動の定義に当てはまりますので、本計画の対象に入ります。N P O は特定のテーマや分野について専門性が高く、町内会は特定の地域のことを広く対象とするので、N P O の専門性を町内会活動で活かすといったような連携が考えられるのではないのでしょうか。

意見：町内会活動は、地区によって差が大きいと思います。静岡市ではあまり聞かれませんが、町内会は地区の長老が会長なので、若い人たちが活動しにくいことがあると聞きます。

回答：以前は、町内会活動には、みんながどの活動にも一様に参加するという性格が強かったが、今は防犯、防災、環境、子育てなど様々な町内会活動の中の興味のある部分に参加し、全体として緩くつながるという N P O 的な性格が加わってきていると思う。

意見：町内会と地区社協は役員が重なっているので、高齢者ケアは比較的やっていると思いますが、子育て支援のような活動は十分ではないし、関わる余裕もありません。仮に積極的理解がないとしても、せめて、若い人たちの活動の足を引っ張らなければいいのではな

いでしょうか。

意見：町内会にも若い人が入ってほしいと思います。

意見：この地区では、国道の改良工事の結果、本道から外れてしまう商店街がありますが、寂れてしまう可能性が高いと思っています。私は、わざわざ遠くに行かなくても米屋、肉屋などが揃うコンパクトな商店街が理想だと思っているので商店街が寂れないようにしたいのですが、ノウハウもないし、リーダーとして牽引してくれる人がいません。今日、ご出席の協議会委員がまちづくりをやっているということなので、ぜひアドバイスいただきたい。

委員：将来展望の共有が大事だと思います。今の町内会は、情報を上から下におろすことはやっていますが、意見を下から吸い上げるのがうまくできていないと思います。まず、意見を出し合う場を作ることから始めてはいかがでしょうか。

意見：町内会と市民活動はつながりがあるので、町内会の問題も触れるべきではないかと思っています。

回答：今年合併する由比町では、町ぐるみのNPO法人づくりが進んでいると聞いています。また、S型デイサービスなどの町内会活動が発展して、NPOになることも当然あると思います。

意見：市民活動に地縁活動を含んでいくのが、全国的な流れです。佐賀県では、NPOとは呼ばずに、CSO（Civil Society Organizations）訳すと市民社会組織と呼び、NPO法人やボランティア団体に限らず、自治会、老人会、PTAといった組織を含みやすくしています。また、町内会がNPO的な方向に向かうのは自然ではないかと思っています。神戸の西須磨では、阪神淡路大震災を経て、地域もNPO的活動をしないといけないのではないかと考えたので、NPOとうまく連携してNPO法人化したと聞いています。由比は、作ったあとどうするかが難しいと思います。サポーターをうまく作っていくことが大切ではないでしょうか。